

安全配慮に基づく面接調査から見てきた 豪州パースの相貌

——留学生にとってパースは安全な街か——

松 岡 昌 幸

1. はじめに

豪州、西オーストラリア州のパース (Perth) は、オーストラリア南西部の人口約143万人 (2003年度) の都市で、西オーストラリア州の州都である。スワン川に面し、河口には外港フリーマントルがある¹⁾。日本で発刊された旅行ガイドブックによると、「スワン川に沿って高層ビルが林立する WA 州の州都。西にインド洋、東に山々が控える調和のとれた町だ。パース駅の南側では、ショッピングが楽しめ、北側はナイト・スポットが軒を連ねる。カフェやブティックが並ぶ流行発信地サビアコも人気。」²⁾と説明されている。また別ガイドブックによると、「スワン川沿いに広がる近代的で美しい街。その歴史は1828年、英国植民地として開拓が始められたことに遡り、その後1880年代から90年代にかけてたくさんの金鉱が発見された時に移り住んだ人々によって、さらに開拓が進んだという。シティのあちこちに残る当時の面影をたたえた建物が、街の雰囲気より魅力的なものにしている。近代的な顔とヒストリカルな雰囲気、そして豊かな自然がほどよく調和した清楚な街、パース。じっくりと散策すると、「世界で最も住んでみたい街」と呼ばれているのも頷ける。」³⁾とある。また詳細な情報を含む旅行ガイドブックによると、「スワン側のほとりに拓けた美しい町だ。古い建物と近代的な建物が不思議な調和を見せる中心街、市街地に広がる豊かな自然、そして1年を通じて温暖な気候……パースを訪れる誰もが、その心地よさに魅せられ、忘れない町となる。パースの良さは町に限ったことではない。郊外のビーチは、ゴールドコースト

以上の美しさをもつとさえいわれている。特にインド洋に沈む落日は、まるで映画のスローモーションを観ているようで、感動的ですからある。ほかに“石化した原生林”ピナクルス、巨大な波が凍りついたような岩ウエーブロックなど、日帰り圏内に豪州を代表する景勝地がある。美しい街並みと郊外に広がる雄大な自然。パースは、そんな魅力にあふれている。」⁴⁾と説明されている。さらに現地パースで発行されているガイドブックによると、「世界で最も美しい街、世界で最も孤立した街、そして世界で最も暮らしやすい街として知られ、自然と文明が上手に融合した理想郷“パース”。人口約190万人のこの街は、1827年に英国人による開拓以来、天然資源の発掘により発展を続ける西オーストラリア州の州都。ゆっくりと流れるスワン川を望むように、近代的なビル群がそびえる市街地、蒼く輝くインド洋と真っ白な砂浜、そして地平線から昇り水平線に沈む太陽。まさにパースは“楽園都市。”⁵⁾と説明されている。これらの説明文を集約するならば、パースは、自然と歴史や文化が調和された美しい街で「世界で最も美しい街」あるいは「世界で最も住んでみたい街」と形容することが可能である。

しかしながら、パースが「世界で最も美しい街」あるいは「世界で最も住んでみたい街」と形容される一方で、特にパースの中心部や郊外において地域住民を巻き込んだ犯罪や窃盗の増加傾向が顕著になっていることに留意しなければならない。著者のパースでの調査において、入手した現地発行のガイドブックには、以下のような治安状況による記載があった。その内容は「西オーストラリア州は、比較的治安が良い地域と思われが

ちであるが、人口の10万人当たりの“犯罪発生数は平均して日本の約12倍”もある。凶悪犯罪は少ないが、窃盗、侵入盗、暴行障害などの軽犯罪はここ数年の急激な人口増加に伴い増加傾向にある。⁶⁾と説明されていた。さらに著者の調査期間中において、以下のような犯罪に関する報道がされたことにも注意が必要である。

Japanese student says Australia is a good place despite his attack.

Bashed student still keen to stay.

Wanted : One of the attackers

A Japanese student has vowed to stay positive about Australia after he was bashed on his way home from university. He, 25, was walking along Chapman Road near Bedford Street in Bentley to his nearby home when a man and woman who had been walking ahead of him approached him about 6.20 pm on Sunday. The woman asked him the time before the man pulled out a knife and threatened him, who tried to walk away but was hit in the face by an unknown object thrown by the woman, leaving him with cuts, bruises and a black eye. His backpack was stolen. The student is three months into a year-long stay. “I know that most people are kind and I don’t change my mind, because Australia is a good country,” he said. The attackers were both between 18 and 20 had dark skin. Anyone with information is asked to call Crime Stoppers on 1800 333 000.

この記事⁷⁾を要約すると、2013年8月4日（日曜日）の夕方（18時20分頃）、日本人留学生が自宅に戻る途中、ベントレイ地域のベッドフォード通りのチャップマン・ロードを歩いているところを、男女の二人に時刻を尋ねられ、その後ナイフで脅迫および暴行されて、リュックサック等を盗まれたという内容である。これらの治安状況の記載や報道記事内容からすると、パースは「世界で最も美しい街」あるいは「世界で最も住んでみたい街」と形容される一方で、別の顔が顕在しており、決して観光者や留学生にとっては安全な街で

はないことを暗示するものである。よって著者は以下のような疑問を持つようになった。「世界で最も美しい街」あるいは「世界で最も住んでみたい街」と形容されるものの、実際の居住者（滞在、永住等）にとっては、あるいは留学生にとっては、決して住みやすい環境ではなく、特に留学生にとっては、かなり高いリスクが伏在し、安全配慮や危機管理に関する細心の注意を払う必要があるのではないかという疑問である。換言するならば、パースは本当に「安全で治安の良い街」であるのか。パースは本当に「世界で最も住みやすい街」であるのか。そして「留学生にとって相応しい留学地」であるのか等の疑問である。よって以上のような疑問を踏まえ、ここでは次の3つの仮説を立てた。まず第1に、「滞在者、移住者、留学生にとってのパースは決して住みやすい街ではない」、第2に「留学生にとってのパースは決して安全な街ではない」、第3に、留学生にとって、トラブル遭遇は常に随伴するものであるが、「トラブル遭遇は、留学などの滞在目的や滞在期間、年齢によって違いが認められる」の3つの仮説である。よって当調査は以上の3つの仮説検証を主眼とし、上述した現地報道やガイドブック等での情報分析を踏まえながら、もっと現場レベル（例えば留学生や居住者、移住者等）を調査対象にした面接調査も加えることによって、パースの治安状況を明らかにすることを目的とした。換言するならば、これまでに入手した安全配慮情報や危機管理情報を参考にしながら、実際にパースを訪れることによって、フィールドワークという質的調査を採り入れ、これまでの旅行ガイドブック等の情報では見えてこなかったパースの治安状況（相貌）を明らかにすることを目的とした。

2. 調査の方法

本調査は、パース滞在者の最新情報をできるだけ多く収集する目的から、質問紙によるアンケート調査を中心に、調査対象者によるインタビュー（聞き取り調査）を併用する方法により、留学生や居住者（移住者）自身の語り（以下インフォーマントと呼ぶ）を実証する方法を採った。ある社

会現象等の調査に対する方法論的アプローチとしては、数値データを中心に分析を進め、主にグラフや数値表等で表現する定量的調査（量的調査）と、主にインフォーマルなインタビューや参与観察によって日常言語に近い言葉による記述と分析を中心とする定性的調査（質的調査）があるが⁸⁾、ここでは2つの調査方法を取り入れる折衷主義を採用することにした。それは滞在者や留学生自身の実態調査留学や異文化理解に対するカルチャーショック等の調査は、安易に質問紙だけでは判断できないと考えられ、より滞在者や留学生の本音の部分聞き出すには、インフォーマントに対しての有効なインタビューも不可欠であると考えたからである。よって本調査は、別言するならば、半構造化された面接法⁹⁾(semi-structured interview)と言うことも可能で、性格的には、調査に関して用意された、決まった質問だけをするのではなく、調査に関係がないと思われることでも、調査の情報をより多く入手するために、普段、友人と話すような感じで話してもらうことが可能となる。

インフォーマントの選定に関しては、在パース日本国総領事館、パース日本人学校、日豪センター、愛知学院大学、西オーストラリア大学、JTBオーストラリア、HISオーストラリア等や各教育機関で働く職員等の友人に協力要請を行い（無作為抽出）、有効なインタビューが可能な現地滞在者、移住者、留学生の方々を選定した。調査期間（フィールド・ワーク期間）は、第1回目は、2013年の12月20日から12月28日までの9日間、第2回目は、2014年の7月31日から8月10日までの11日間、計2回20日間実施した。現地滞在先はフィールドワークを有効に推進する目的で、第1回目は、パース市内にあるアンバサダー・ホテルに滞在、第2回目は、西オーストラリア大学の学生寮（トリニティ・カレッジ）に滞在した。インフォーマントに対するインタビューは、主として現地において実施され、愛知学院大学の学生に対するインタビューは、前年度既に留学を修了した学生を対象に日本においても実施した。また直接インタビューが困難なインフォーマントに対

しては、郵送にて実施した。また郵送によるものは、調査期間終了後（フィールドワーク終了後）、質問紙調査やインタビューが円満に推進されるように、電話やメール等にて調査の追跡調査を頻繁に実施した。さらに質問紙の回答に関しては、専門用語も含まれるため、インフォーマントにとって、意味解読が困難な場合は、日本への帰国後、補助する方法を採った。今回の調査によって全ての質問紙調査票を回収した全インフォーマント数は37名（N=37）であった。また回収した質問紙の統計処理方法に関しては、SPSSによる統計分析、例えば相関分析、クロス集計処理、カイ2乗検定、ノンパラメトリック検定、コレスポンデンス分析等による出力結果を基に整理した。

下記の表1は、本調査（アンケート）における質問項目を整理したものである。

表1 本調査の質問項目（安全配慮に基づく面接調査）

[属性] インフォーマントの特徴に関する質問項目

1. あなたの性別をお答えください。
2. あなたの年齢をお答えください。
3. あなたはどのような目的でパースを訪れましたか。（該当するものに○）
4. パースでの滞在期間はどのくらいでしたか。あるいはどのくらいですか。（該当するものに○）

[感想・印象] パース滞在に対しての印象・感想に関する質問項目

5. あなたはパースを訪れて、あるいは滞在して、どのような印象や感想を持ちましたか。（自由記述：パースに関する具体的な印象を自由に記入してください）

[治安] パースの治安（トラブル遭遇）に関する質問項目

6. あなたはパース滞在中に何かトラブルに巻き込まれたとか、危険な状況に遭遇したことはありませんか？（該当するものに○）
7. それはどのようなトラブルや危険な状況でしたか？（自由記述形式：できるだけ具体的に記入してください）
8. トラブルや危険な状況に遭遇した場所はどこですか？（自由記述形式：具体的な場所や地域名を記入してください）
9. その他、パース内において安全上、行かないほうがいい、近寄らないほうがいい、という場所や地域があれば教えてください。（自由記述形式：具体的な場所名や地域名を記入してください）

3. 調査の結果

本調査におけるインフォーマントの性別は、男

表2 インフォーマントに関する情報

インフォーマント	性別	年齢	目的	滞在期間
# 1	女性	47	移住	3年間～
# 2	女性	29	留学	1年間～3年間
# 3	男性	27	ワーキングホリデー	3ヶ月～6ヶ月
# 4	男性	40	仕事(出張, 駐在)	3年間～
# 5	男性	40	仕事(出張, 駐在)	3年間～
# 6	女性	27	仕事(出張, 駐在)	3ヶ月～6ヶ月
# 7	男性	41	仕事(出張, 駐在)	1年間～3年間
# 8	女性	41	移住	3年間～
# 9	男性	38	仕事(出張, 駐在)	3ヶ月～6ヶ月
# 10	女性	23	留学	3年間～
# 11	男性	41	移住	3年間～
# 12	女性	21	留学	1週間～4週間
# 13	女性	20	留学	1週間～4週間
# 14	女性	20	留学	1週間～4週間
# 15	女性	21	留学	1週間～4週間
# 16	男性	21	留学	1週間～4週間
# 17	女性	20	留学	1週間～4週間
# 18	女性	20	留学	1週間～4週間
# 19	男性	20	留学	1週間～4週間
# 20	女性	20	留学	1週間～4週間
# 21	女性	41	観光旅行	1週間～4週間
# 22	男性	25	留学	3ヶ月～6ヶ月
# 23	男性	34	仕事(出張, 駐在)	3年間～
# 24	女性	22	留学	3ヶ月～6ヶ月
# 25	女性	21	留学	1年間～3年間
# 26	男性	31	仕事(出張, 駐在)	3ヶ月～6ヶ月
# 27	男性	35	仕事(出張, 駐在)	1年間～3年間
# 28	男性	33	仕事(出張, 駐在)	1年間～3年間
# 29	女性	33	留学	1年間～3年間
# 30	男性	32	留学	1年間～3年間
# 31	男性	29	仕事(出張, 駐在)	1年間～3年間
# 32	女性	28	仕事(出張, 駐在)	3年間～
# 33	女性	28	移住	6ヶ月～1年間
# 34	女性	27	仕事(出張, 駐在)	6ヶ月～1年間
# 35	男性	41	仕事(出張, 駐在)	3年間～
# 36	女性	27	仕事(出張, 駐在)	6ヶ月～1年間
# 37	女性	31	ワーキングホリデー	6ヶ月～1年間

* インフォーマントの総数37 (N=37)

性が16名(43.24%), 女性が21名(56.76%)であった。年齢分布は最年少が「20歳」、最高年齢が「47歳」で、平均値が「29.59歳」、中央値は「28.00」であった。上の表2は、インフォーマントに関する情報を整理したものである。

次の図1はパースに訪れた目的(理由)を円グラフにて出力したものである。それによるとパースへの滞在目的の第1位は「留学」(43.24%)、第2位が「仕事(出張, 駐在含む)」(37.84%)、第3位が「移住」(10.81%)、第4位が「ワーキ

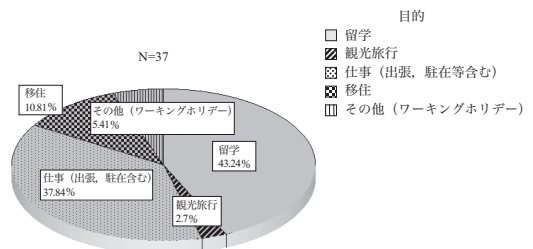


図1 パースへの滞在目的

安全配慮に基づく面接調査から見てきた豪州パースの相貌（松岡）

ングホリデー」(5.41%)、第5位が「観光旅行」(2.7%)であった。但し「在住」と「移住」に関して、回答者が移住者を在住者としてマークしてしまう場合も看取されたため、ここでは両者の意味において違いがないことを追記する。

次の図2は、パースでの滞在期間を円グラフにて出力したものである。それによると、第1位が「1週間～4週間」(27.03%)、第2位が「3年間以上」(24.32%)、3位が「1年間～3年間」

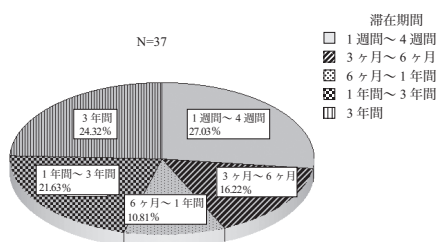


図2 パースでの滞在期間

表3 インフォーマントの自由記述の整理（パースの印象・感想）

12つの項目	自由記述の内容（あなたはパースを訪れてどのような印象や感想を持ちましたか？）
①自然環境の良さ	<ul style="list-style-type: none"> *自然環境が素晴らしい。*自然が豊か。*自然が多い。 *自然がいっぱいある。*自然がすごい。*海がきれいだった。*海がとてもきれいだった。 *少し移動すると川があったり、記念公園とかあって自然もたくさんあった。 *海のように広いスワンリバーが流れ綺麗でした。 *自然が多く開放的で良いところです。*自然豊かでのびのびと生活できる。 *パースの空が大好きです。
②のどかさ、静かさ	<ul style="list-style-type: none"> *のどかなところ。*のどかで静かな街です。*時間がゆっくりと流れている感じ。 *みんなせかせかしていない。*のどかで静かだった。 *オーストラリア東海岸に比べてずいぶん静かなところだと思いました。 *のんびりとしたところです。*時間がゆっくりと流れている都市です。 *のんびりとしたきれいな街。*のんびりしています。 *ゆったりと時間が流れている感じがする。
③住みやすさ	<ul style="list-style-type: none"> *住みやすい街。*思ったより都会ではなかったのに住みやすかった。 *とても住みやすい町だと思った。*住みやすそうだけど退屈！ *住みやすいと言われている理由が訪れてみてよく分かりました。 *都会すぎず、田舎すぎずとても住みやすい。
④フレンドリーさ	<ul style="list-style-type: none"> *人々が親切です。*人々がとても優しい。 *優しく声をかけてくれた人も多かった。*人が優しい。*人が温かくとても過ごしやすかった。 *英語が話せなくてもすぐ優しくなった。*道に迷った時も聞けば必ず教えてくれた。 *オージーは親切です。*街の人達も親切、明るい人が多い印象です。
⑤治安の良さ	<ul style="list-style-type: none"> *とても安全な街です。*治安は良いと思います。 *治安的に安心して暮らせる街です。
⑥都市環境の良さ (美しい街、素敵な街)	<ul style="list-style-type: none"> *きれいな街だった。*非常に美しい街。*とてもきれい。*素晴らしい。*素敵な街です。 *とても美しく緑が多い街です。*春のワイルドフラワーの季節が一番よい。 *きれいな町。*とても素敵な町だと思います。*街がきれい。 *思ったより都会であった。*買い物するところもたくさんあって良いところでした。 *ゴミがあまり落ちておらず街並みが美しく感じた。*公園や湖が数多くある。 *きれいな街。*大きな街です。*街がコンパクトでわかり易い。 *非常にきれいな街です。*夕方にかけて夕暮れが大変きれいです。 *大きな公園がたくさんあってリラックスできる。
⑦気候の良さ	<ul style="list-style-type: none"> *気候が過ごしやすい（雪は降らない）。 *1年を通じて暖かく過ごしやすいです。*お天気の良い日が多く過ごしやすいです。 *日中は大変気持ちがよく散歩に出かけたくくなります。
⑧治安の悪さ	<ul style="list-style-type: none"> *夜になると人通りが少なくなります。*夜の1人での外出は控えるべき。 *人が多いところでは危険そうな人がいた。 *夜は危なそうに見えるところもありました。
⑨交通環境の良さ	<ul style="list-style-type: none"> *電車やバスなどの交通機関が充実しているため、どこかに出かけるにも便利。 *バス、列車、フェリー、など公共交通機関が充実していて観光するのに便がよい。
⑩留学生が多い	<ul style="list-style-type: none"> *パースは留学生が多い。
⑪物価の高さ	<ul style="list-style-type: none"> *パースは物価が高いです。*物価が高い！ *食事が高い。
⑫多文化的	<ul style="list-style-type: none"> *いろいろな人たちが住んで多文化的です。

(21.62%)、第4位が「3ヶ月～6ヶ月」(16.22%)、第5位が「6ヶ月～1年間」(10.81%)で、今回のインフォーマントにおいては「1ヶ月～3ヶ月」の滞在者は「該当なし」であった。以上が滞在期間の調査結果である。

前の表3は、半構造化された面接調査を基に、その印象や感想を整理する目的からインフォーマントの自由記述を整理したものである。その結果、パースの印象(感想)は、12の項目に整理することが可能となった。その12の項目とは、①自然環境の良さ、②のどかさ、静かさ、③住みやすさ、④フレンドリーさ、⑤治安の良さ、⑥都市環境の良さ(美しい街、素敵な街)、⑦気候の良さ、⑧治安の悪さ、⑨交通環境の良さ、⑩留学生が多い、⑪物価の高さ、⑫多文化的である。

そして下の図3は、表3の自由記述を基(12項目)に、パースの印象(感想)を棒グラフにて順位の高い順に出力したものである。それによると、第1位は「美しい街、素敵な街」(24.00%)、第2位が「のどか、静か」(16.00%)、第3位が「自然環境の良さ」(14.67%)、第4位が「やさしさ、フレンドリーさ」(12.00%)、第5位が「住みやすさ」(9.33%)、第6位が「治安の悪さ」(5.33%)、第7位が同率で「交通環境の良さ」(4.00%)、「物価が高い」(4.00%)、「気候の良さ」(4.00%)、「治安の良さ」(4.00%)、第11位が同率で「多文化的」(1.33%)、「留学生が多い」(1.33%)であった。

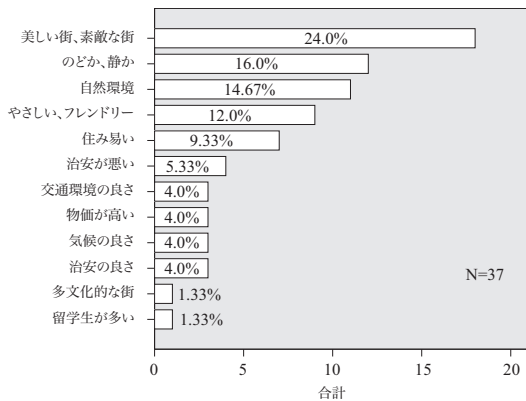


図3 パースの印象(感想)

下の図4は、パースの治安に関する質問から、パース滞在中において何かトラブルに巻き込まれたとか、危険な状況に遭遇したこと(トラブル遭遇)を円グラフにて出力したものである。それによると、第1位は「特になかった」(27.03%)、第2位は同率で「少しあった」(24.32%)、「どちらとも言えない」(24.32%)、第4位は「全然なかった」(18.92%)、第5位は「かなりあった」(5.41%)であった。「かなりあった」、「少しあった」、「どちらとも言えない」と答えた方の合計が「54.32%」で、5割を超えることは、パースの街が、マスコミ報道等によって「治安の良さ」が強調される一方で、治安が悪いことも意味するものである。

そして次の表4は、さらに詳しいパースの治安状況を把握するために、上述の「かなりあった」、「どちらとも言えない」、「少しあった」と回答したインフォーマントを対象に、具体的なトラブルや危険状況を整理したものである(自由記述の整理)。その結果、具体的なトラブルや危険状況は7つの項目に整理することが可能になった。その7つの項目とは、①泥棒、盗難、空き巣、②車上荒し、③人種の差別、④危ない人との遭遇、⑤先住民とのトラブル、⑥暴力被害、⑦夜のトラブル、である。この中の⑤「先住民とのトラブル」に関しては、先住民の暴力被害等、「aborigine」(アボリジニ)関連の方々からの被害であり、先住民と地域住民の方々との関係性、いわば異文化コミュニケーションや異文化共生の難しさを物語っていると考えられる。

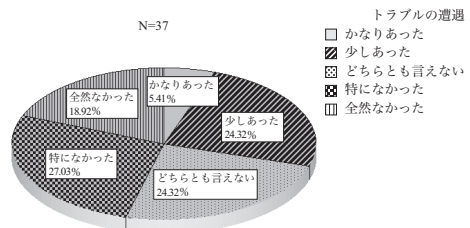


図4 トラブルの遭遇

安全配慮に基づく面接調査から見てきた豪州パースの相貌（松岡）

表4 インフォーマントの自由記述の整理（具体的なトラブルや危険状況）

7つの項目	自由記述の内容（それはどのようなトラブルや危険な状況でしたか？）
①泥棒、盗難、空き巣	<ul style="list-style-type: none"> * 空き巣にあった。* 知人が泥棒にあった。 * 知人が車を盗まれた。* 空き巣が多く自分も空き巣にあった。 * 置き引きにあった。* ビーチで置き引きにあった。 * ひったくりのような現場を見た。 * 友達と遊びに行ったらスリを見た。
②車上荒し	<ul style="list-style-type: none"> * 駐車場（公園）にガラスをわられた跡があった。 * 車上荒しにあった。* 車上荒し（日夜問わず）。 * 工作中に車上荒しにあった。
③人種の差別	<ul style="list-style-type: none"> * アジア人として差別を受けた。
④危険な人との遭遇	<ul style="list-style-type: none"> * 電車にできるだけ関わりたいくない人が乗ってきた（トラブルメーカー）。 * ペットボトルを投げられた。 * 道に座り込んでいる人とか寝ている人とか、すごく叫んでいる人とか危ない人がたくさんいた。 * 危ない人に声をかけられた。 * 4人ぐらいの外国人たちがうつろな感じで「たばこ持っていない？」と聞いてきて「持っていない」と言ったら、いろいろ言われた。 * 公園のベンチで夜ご飯を食べた後にしゃべっていたら、がらの悪いグループにからまれた。 * 交差点近くで停車中の車内から男性に声（叫び声）で驚かされた。 * 路上で2ドル要求され拒否した際に追いかけられた。
⑤先住民とのトラブル	<ul style="list-style-type: none"> * アボリジニによる暴力的被害にあった。 * 2～4人組みのアボリジニから被害を受けた。 * 日本人の友達がアボリジニにからまれた話を数件聞きました。 * アボリジニ関連の方々から被害を受けた。
⑥暴力被害	<ul style="list-style-type: none"> * いきなり暴力的被害を受けた。 * フリーマントルの広場、駅前で友人が襲われた。
⑦夜のトラブル	<ul style="list-style-type: none"> * 夜、ペットボトルを投げられた。 * 街灯が暗いので危ない思いをした。 * 夜ともだちと遊びに行ったらスリを見た。 * 夜にアボリジニにからまれた。* 夜はよっぽらいが多くてよくからまれた。 * 夜12時近くに駅から自宅まで約10分程の道のりを歩いていたところ、一台の車が急に停車し、しばらく横につけられた。

そして右の図5は、上の表4の自由記述を基（7項目）に、パースでの具体的なトラブルの状況を棒グラフにて順位の高い順に出力したものである。それによると、第1位は「危険な人との遭遇」（31.25%）、第2位が「泥棒、盗難、空き巣」（25.00%）、第3位が「車上荒し」（15.62%）で、第4位が「夜のトラブル」（12.50%）、第5位が「人種的差別」（6.25%）、同率で「暴力被害」（6.25%）、そして第7位が「先住民とのトラブル」（3.12%）、であった。これらの調査結果から判ることは、パースが「治安の良さ」あるいは「住みやすさ」を強調するのは、あくまでも昼の話であって、夜から早朝にかけては、危険な人の出現

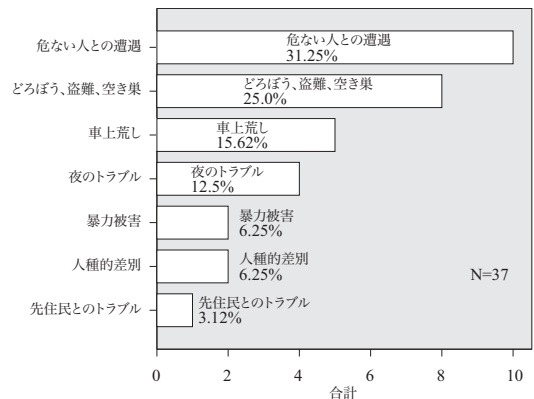


図5 具体的なトラブル状況

表5 相関係数

		トラブルの遭遇	性別	年齢	目的	滞在期間
トラブルの遭遇	Pearson の相関係数	1	.219	-.500**	-.019	-.309
	有意確率 (両側)		.192	.002	.911	.063
	N	37	37	37	37	37
性別	Pearson の相関係数	.219	1	-.375*	-.231	-.264
	有意確率 (両側)	.192		.022	.168	.114
	N	37	37	37	37	37
年齢	Pearson の相関係数	-.500**	-.375*	1	.571**	.667**
	有意確率 (両側)	.002	.022		.000	.000
	N	37	37	37	37	37
目的	Pearson の相関係数	-.019	-.231	.571**	1	.458**
	有意確率 (両側)	.911	.168	.000		.004
	N	37	37	37	37	37
滞在期間	Pearson の相関係数	-.309	-.264	.667**	.458**	1
	有意確率 (両側)	.063	.114	.000	.004	
	N	37	37	37	37	37

** 相関係数は1%水準で有意 (両側) です。

* 相関係数は5%水準で有意 (両側) です。

や、先住民や人種的差別に孕む異文化摩擦や軋轢等が生じていることが判る。また昼においても、泥棒、盗難、空き巣被害、車上荒しが頻発しており、決してパースが治安の良い街であるとは言えない。

さらに上の表5は、パースでの「トラブル遭遇」と「性別」、「年齢」、「滞在目的」、「滞在期間」との関係性を解明するために、相関分析を行ったものである。

表5で整理された相関係数によると、「トラブル遭遇」と「年齢」の関係性 (相関係数=0.500) および「年齢」と「滞在期間」の関係性 (0.667) において、強い相関があり、「滞在目的」と「滞在期間」の間においては、やや強い相関 (0.458) があることが明らかになった。そして右の図6は「年齢とトラブル遭遇」の関係、図7は「滞在目的とトラブル遭遇」の関係、図8は「滞在期間とトラブル遭遇」の関係を、棒グラフ (比率を100%に変換したもの) に出力して整理したものである。

これらの図によると、トラブル遭遇は、年齢の差において違いが見られ、滞在目的においては、留学、観光旅行、仕事、移住者においての差が顕著であり、さらに滞在期間においては、1年以下

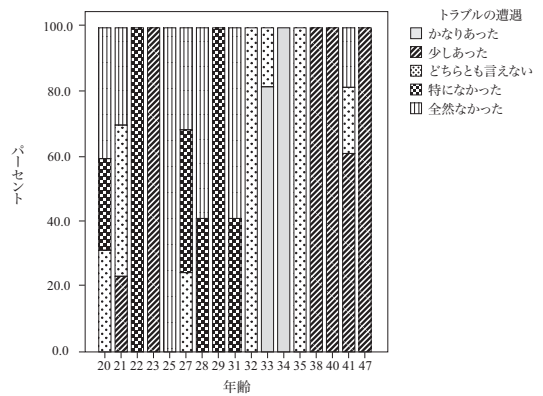


図6 年齢とトラブル遭遇の関係

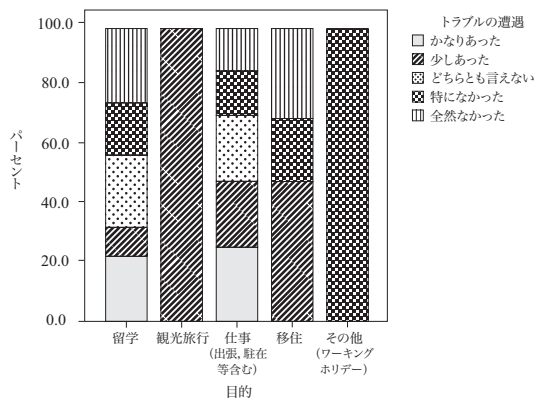


図7 滞在目的とトラブル遭遇の関係

安全配慮に基づく面接調査から見てきた豪州パースの相貌（松岡）

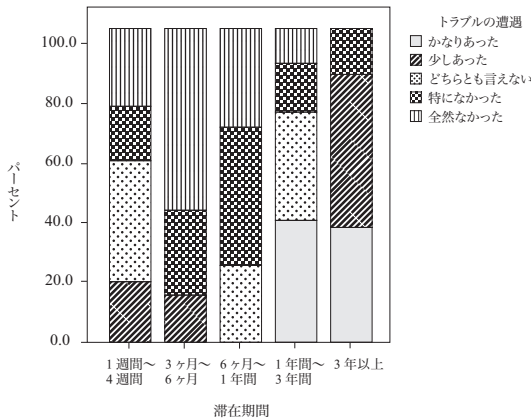


図8 滞在期間とトラブル遭遇との関係

の滞在期間と長期の滞在者（1年以上，3年以上）の間において，大きく違いがあることが明らかになった。

さらに次の表6，表7，表8は，それぞれの関係性の有意差（違いがある）を確認するために，カイ2乗検定を行ったものである。

先ず表6の年齢とトラブル遭遇に関する関係性は，有意確率=0.649>0.05により有意差が認められず，その「差がない」ことが判明した。また表7に見られる「滞在目的とトラブル遭遇」に関する有意確率は0.668>0.05により，有意差が認められないことが明らかになった。さらに表8における「滞在期間とトラブル遭遇」の関係性においても有意確率=0.067>0.05により有意差が認められないことが判明したが，有意確率「0.067」が極めて「0.05」に近いために，やや有意差が認められ，「やや差がある」（やや違いがある）ことが明らかになった。よってトラブル遭遇との関係性を整理すると，トラブルの遭遇は，年齢や滞在目的，性別には関係しないが，滞在期間には，やや関係する（やや有意差が認められる）ことが明らかになった。

図9，図10は，上述の分析において関係が明らかになった「トラブル遭遇」と「滞在目的」，「滞在期間」の両者の対応をさらに詳細に分析するために，コレスポネンス分析（カテゴリーの対応）を試み，その結果を出力したものである。

先ず図9によると，「滞在目的とトラブル遭遇」

表6 年齢とトラブル遭遇（カイ2乗検定）

	値	自由度	漸近有意確率(両側)
Pearson のカイ2乗	2.478 ^a	4	.649
尤度比	2.519	4	.641
線型と線型による連関	1.734	1	.188
有効なケースの数	37		

a.7セル（70.0%）は期待度数が5未満です。最小期待度数は.86です。

表7 滞在目的とトラブル遭遇（カイ2乗検定）

	値	自由度	漸近有意確率(両側)
Pearson のカイ2乗	13.069 ^a	16	.668
尤度比	13.699	16	.621
線型と線型による連関	.013	1	.909
有効なケースの数	37		

a.25セル（100.0%）は期待度数が5未満です。最小期待度数は.05です。

表8 滞在期間とトラブル遭遇（カイ2乗検定）

	値	自由度	漸近有意確率(両側)
Pearson のカイ2乗	25.136 ^a	16	.067
尤度比	30.258	16	.017
線型と線型による連関	3.434	1	.064
有効なケースの数	37		

a.25セル（100.0%）は期待度数が5未満です。最小期待度数は.22です。

での対応は，滞在目的の留学，仕事（出張，駐在等）においてトラブル遭遇に関係していると思われるが，その対応が「全然なかった」，「どちらとも言えない」，「かなりあった」の3つに対応が見られるため，この結果からは，目的とトラブル遭遇の関係性は，ないと判断される。また図10からは，滞在期間の「1～3年間」が「どちらとも言えない」に対応，3年間以上が「少しあった」に対応していることが看取できるため，滞在期間とトラブル遭遇の関係性があり，特に3年以上の滞在者には，何らかのトラブル遭遇が見られることを意味する。

次の表9は，トラブル遭遇において回答したインフォーマントの中で「かなりあった」，「少しあった」，「どちらとも言えない」と回答した方を中心にして，具体的な場所名や地域名や安全上，近寄らないほうが良い場所や地域を整理したもので

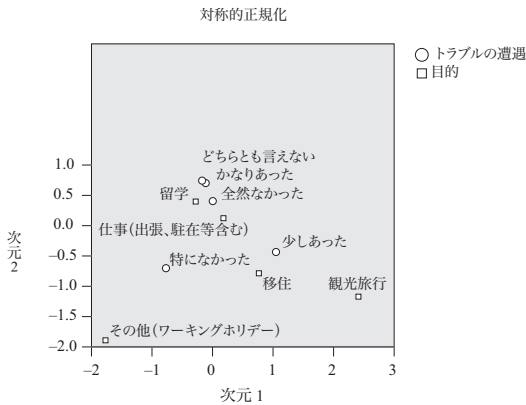


図9 滞在期間とトラブル遭遇の関係
(コレスポンデンス分析)

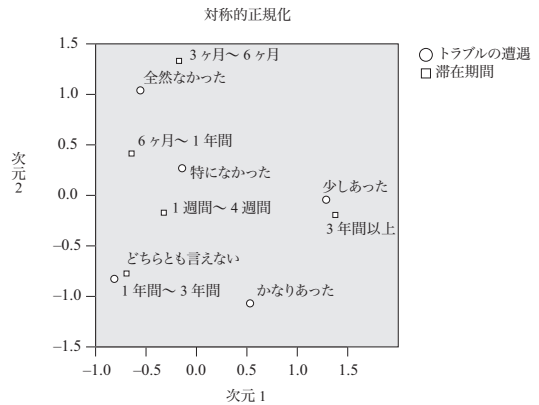


図10 滞在期間とトラブル遭遇の関係性
(コレスポンデンス分析)

表9 トラブルや危険な状況に遭遇した具体的な場所 (近寄らないほうが良い場所)

インフォーマント	具体的な場所名, 地域名
#1	*アーマデール・ライン (Armadale line between Burswood and Oats Street.)。
#4	*ノースブリッジ (Northbridge Area.)。
#7	*ウッドマンポイント (公園) (Woodman Point Park), ノースブリッジ。
#9	*ノースブリッジ近くの公園 (Beaufort Street 沿いの公園)。
#10	*アーマデール・ライン (Armadale line)。 *夜のノースブリッジ周辺。
#11	*ビクトリアパーク (Victoria Park), パーズウッド (Burswood)。 *夜のノースブリッジ。
#12	*パース市内, 駅の周辺。
#14	*ノースパースの公園 (North Perth)。
#15	*ノースパース。
#18	*パースシティ (Perth City)。
#21	*ノースブリッジの繁華街。Beaufort Street と Brisbane Street の交差点近く。
#23	*ビクトリアパーク (Victoria Park)。 *夜のミッドランド (Midland)。
#25	*ノースブリッジ。 *夜のパース市内。
#27	*ノースブリッジ *バントレイ地区 (Chapman Road near Bedford Street in Bentley)。
#28	*ノースブリッジの北側。 *東パース地域 (Parry Street ~BulwerStreet, Lord Street~William Street)。
#29	*夜のノースブリッジ。
#30	*フリーマントルの広場, 駅前 (Fremantle)。
#31	*ミッドランド (Midland)。
#35	*マーティン地区 (Martin Area, Ellis Brook)。
#36	*アーマデール・ライン (Armadale line), クイーンズ・パーク駅周辺 (Queens Park)。

ある。

前の表9からは、インフォーマントの多くが、「ノースブリッジの周辺」(Northbridge Area) および「ノース・パース」(North Perth) の地域をあげていることが看取できる。そして特に夜のノースブリッジに関しては、近寄らないほうが望ましいことを指摘している。また具体的なパース近郊電車ルートの一つである「アーマデル・ライン」をあげ、「バースウッド」(Burswood) や「ベントレイ」(Bentley), 「クイーンズ・パーク」(Queens Park) 地域は治安が良くないことが明らかになった。

4. 考察とまとめ

今回の安全配慮に基づく、半構造化された面接調査によって明らかになったことは、先ず第1に、パース滞在の印象(感想)は、①自然環境の良さ、②のどかさ、静かさ、③住みやすさ、④フレンドリーさ、⑤治安のよさ、⑥都市環境の良さ(美しい街、素敵な街)、⑦気候の良さ、⑧治安の悪さ、⑨交通環境の良さ、⑩留学生が多い、⑪物価の高さ、⑫多文化的の12項目に分けられ、特に上位から順に、「美しい街、素敵な街」(第1位)、「のどか、静か」(第2位)、「自然環境の良さ」(第3位)、を指示するインフォーマントが多かった。よってパースの相貌は「自然に囲まれた、美しい街、素敵な街」であると形容することが可能である。しかし一方では、「治安の悪さ」、「物価が高い」を回答するインフォーマントから判断すると、滞在者にとっては「必ずしも住みやすい街とは言えない」という側面があることが確認された。

第2に、パースでのトラブル遭遇は、①泥棒、盗難、空き巣、②車上荒し、③人種の差別、④危ない人との遭遇、⑤先住民とのトラブル、⑥暴力被害、⑦夜のトラブル、等の7項目にカテゴリー化され、上位には「危ない人との遭遇」、「泥棒、盗難、車上荒し」、「夜のトラブル」をあげるインフォーマントが多かった。またトラブル遭遇において「かなりあった」、「少しあった」、「どちらとも言えない」、と回答した方の合計が5割を超え

たことは、パースの街が、マスコミ報道によって「治安の良さ」が強調される一方で、治安が悪いことを意味する。さらに相関分析(相関係数)からは、「トラブル遭遇」と「年齢」、および「年齢」と「滞在期間」との間に強い相関があり、「滞在目的」と「滞在期間」においては、やや強い相関があることが判明した。カイ2乗検定においては、「滞在期間」と「トラブル遭遇」において有意差が認められ、「やや差がある」(やや違いがある)ことが判明した。またコレスポンデンス分析(対応分析)からは、1年間～3年間の比較的長期滞在者がトラブル遭遇に対して「どちらとも言えない」および3年間以上の長期滞在者のみが、「少しあった」に対応していることから、長期になればなるほど、トラブル遭遇は、より随伴的なものになることが判明した。よって先述した「3つの仮説」の中の1つである「トラブル遭遇は、留学などの滞在目的や滞在期間、年齢によって違いが認められる」に関しては、「トラブルの遭遇は、滞在目的や年齢には違いがないが、滞在期間によって、やや違い(有意差)が認められる」ことが判明した。

第3に、パースでの危険な場所は、「ノースブリッジ」(Northbridge) の周辺および「ノース・パース」(North Perth) の地域で、特に「夜のノースブリッジ」に関しては、近寄らないほうが望ましいことが明らかになった。またパース近郊電車ルートの一つである「アーマデル・ライン」(Armadale Line) は比較的治安が悪く、特に「バースウッド」(Burswood) や「ベントレイ」(Bentley), 「クイーンズ・パーク」(Queens Park) 地域は治安が良くないことが明らかになった。

以上のような調査結果を基に、さらに今回のフィールドワークによって入手した西オーストラリア州安全情報を追加して考察を加えると、パースは表の顔としては、自然と歴史や文化が調和された美しい街で「世界で最も美しい街」あるいは「世界で最も住んでみたい街」と形容することが可能であるが、裏の顔としては、泥棒や盗難、車上荒しや危ない人が伏在する治安が悪い街であると形容することが可能である。巻末の表10は、

在パース日本国総領事館（2013）から入手した西オーストラリア州の犯罪発生状況を基に著者が整理したものである¹⁰⁾。また巻末の表11は、同様に在パース日本国総領事館（2014）から入手した「安全の手引」（日本、西オーストラリア州犯罪統計表）を基に、著者がさらに名古屋市の人口比に対して数値を加えて整理したものである¹¹⁾。

巻末の表10によると、西オーストラリア州は、特に「暴行傷害」（22,818件）、「住居侵入」（27,375件）、「窃盗」（77,355件）が多く、さらに追加取材によって他のオーストラリアの州と比べて（人口割合）、極めて数が多いことが明らかになった。パース内の地区別から犯罪発生数を見ると「サウス・イースト」（South East）が多く、その中にはアンケート調査で判明した「アーマデール」（Armadale）が含まれている。よって留学生や観光者等においては、特に「サウス・イースト地区」に宿泊形態としてホームステイ等を選択する場合は細心の注意が必要である。また巻末の表11からすると、2011年度の人口10万人当たりの犯罪発生件数に対する犯罪率は日本と比べて、殺人が「4.7倍」、暴行傷害が「22.1倍」、強盗が「25.6倍」、性的犯罪が「11.8倍」、住居侵入盗が「72.1倍」、窃盗が「3.6倍」、犯罪発生総件数は「5.8倍」であることが明らかになった。また比較的人口が類似する都市である名古屋市（人口：約227万人、2014年度）と比較すると¹²⁾、殺人は「1.9倍」、暴行傷害は「7.7倍」、強盗は「6.2倍」、性的犯罪は「4.4倍」、住居侵入盗は「2.3倍」、窃盗が「1.1倍」、犯罪発生総件数は「2.1倍」であることが明らかになった。これらのデータからは、アンケート調査でも判明した「世界で最も住みやすい街」であるとか、「国際的にみて比較的治安の良い地域」であるとは決して言えないことを意味する。特に住宅侵入盗は、日本の「72.1倍」、強盗にあっては、日本の「25.6倍」の犯罪率を示しており、宿泊形態として「ホームステイ」を選択する留学生にとっては、決して望ましい留学環境ではないと考えられる。また先述した現地発行のガイドブックで記載されていた「西オーストラリア州は、人口10万人あたりの犯罪発

生数は、日本の約12倍もある」という記述においても、どの種類の犯罪データを基にしているのかが明記されていないものの、内容的には正鵠を射ていることになる。よって最初に立てた第1の仮説である「滞在者、移住者、留学生にとってのパースは決して住みやすい街ではない」は、正に立証されることになる。また第2の仮説である「留学生にとってのパースは決して安全な街ではない」においても、正に留学生にとっては、決して住みやすい環境とは言えず、特に宿泊形態としてホームステイを選ぶ場合は、先述の受託侵入盗や強盗から判断して、決して安全な街ではないことを意味し、第2の仮説も立証されることになる。以上が今回の安全配慮に基づく面接調査によって明らかになった豪州パースの相貌である。

しかしながら、米国の大都市の1つの特徴である銃やホームレス者、あるいはギャング（Gang）¹³⁾達にみられる逸脱行為や犯罪が多く伏在し、堅固な危機管理に対する意識が必要不可欠な街が多い米国の留学先（留学地）と比べると、パースは安全な街、住みやすい街、そして美しく、綺麗で、素敵で、素敵な街であることは明らかであり、特にマルチ・カルチュアリズム（文化多元主義）¹⁴⁾の視点からは、ホームステイ希望者を多く受入れることが可能な留学地（留学先）であることは紛れも無い事実であり、日本人留学生（特に短期留学生）にとっては魅力のある街であることを追記する。

今後の調査課題は、対象者であるサンプル数が少なく、必ずしも全体の母集団の説明ができていないのではないかな等の懸念が残った。調査方法によるサンプル入手に關しての困難さはあるが、今後は半構造化による有効な面接対象者であるインフォーマントの数を増やすこと、そしてインフォーマント対象者として、日本人滞在者だけを対象とするのではなく、他の国籍を有する滞在者のサンプル数を増やすことによって、さらに研究結果の精緻を高めていくことが焦眉の急である。

註

- 1) 新村出（2008）『広辞苑第6版』岩波書店、p. 2211

- 2) JTB 出版事業局 (1999) 『るるぶ、オーストラリア』 p. 109
- 3) JTB 出版事業局 (1998) 『オーストラリア自遊自在』 p. 369
- 4) ダイヤモンド社 (2013) 『地球の歩き方、オーストラリア』 p. 556
- 5) The Perth Express (2014) 「オーストラリア、パース・インフォメーション・マップ」 Vol. 31, p. 2
- 6) 「西オーストラリア旅・生活情報誌, まるごとパース」 (2013, 2014), p. 58
- 7) The West Australian, Thewest.com.au “NEWS” (Tuesday, August 06, 2013)
- 8) 佐藤郁哉 (2006) 『フィールドワーク 増訂版』新曜社, pp. 75-76
- 9) 末広美樹 (2006) によると, 半構造化された面接法は, 質問紙のように機械的・表面的なデータに頼るというよりも, 実際の面接により, 質問を重ねながら確かめていくことに特徴があるため, その長所を最大限に活かすように, 相手の主体的な態度や心理的な構えが出てくる可能性があるとし, 自らの異文化接触の調査法において, この面接法の有効性を指摘している。
- 10) 著者が第 1 回目の調査において在パース日本国総領事館にて入手した資料 (2013年11月15日)。
- 11) 著者が第 2 回目の調査において在パース日本国総領事館にて入手した資料「安全の手引ー犯罪情報」 (2014年 8 月 4 日)。
- 12) 愛知県警察本部 (2014年 8 月 12 日) より入手した「刑法犯, 罪種別, 認知・検挙件数・検挙人員 (前年比)」を基に著者が分析を加えた。
- 13) ギャング (Gang) とは, ① [集合的] に (囚人・奴隷・労働者などの) 群れ; (会社の) 同僚たち仲間, ② (悪漢などの) 一団, 一味; ギャング, 暴力団, ③遊び友達; (排他的な) 仲間等の意味がある。出所: ジーニアス英和辞典第 3 版 (大修館書店)。ここでは明らかに排他的な仲間等を意味する。
- 14) マルチカルチャリズム (文化多元主義) とは, 多元的社会におけるジェンダー, 民族, 人種, 文化に見られる多様性がすべての社会的制度, 特に教育制度 (教職員, 規範, 価値観, カリキュラム, 生徒集団を含んだ) において反映されなくてはならないとする哲学的立場および運動のことである (Banks

& Banks, 1993), 出所: カール・A. グラント, グロリア・ラドソン=ピリング編著『多文化教育事典』明石書店, p. 248

参考文献

- ダイヤモンド社, ダイヤモンド・ビック社 (2013) 『地球の歩き方ーオーストラリア』
- 石村和夫, 石村光資郎 (2006) 『SPSS でやさしく学ぶ多変量解析』東京書籍
- カール・A. グラント, グロリア・ラドソン=ピリング編著『多文化教育事典』明石書店
- JTB 出版事業局 (1999) 『るるぶ、オーストラリア』
- JTB 出版事業局 (1998) 『オーストラリア自遊自在』
- 加藤千恵子, 盧志和, 石村貞夫 (2003) 『SPSS でやさしく学ぶアンケート処理』東京書籍
- 酒井麻衣子 (2004) 『SPSS 完全活用法データの入力と加工』東京書籍
- 酒井麻衣子 (2004) 『SPSS 完全活用法データの視覚化とレポートの作成』東京書籍
- 佐藤郁哉 (2006) 『フィールドワーク 増訂版』新曜社, pp. 75-76
- 末広美樹 (2006) 『日本人留学生のアイデンティティ変容』大阪大学出版会, pp. 23-24
- 内田治 (2004) 『SPSS によるアンケートの調査・集計・解析』東京書籍

参考資料

- The Perth Express (2014) 「オーストラリア, パース・インフォメーション・マップ」 Vol. 31, p. 2
- The West Australian, Thewest.com.au “NEWS” (Tuesday, August 06, 2013)
- 「西オーストラリア旅・生活情報誌, まるごとパース」 (2013, 2014), p. 58

謝辞

本調査において, アンケートやインタビューに答えていただいたインフォーマントの方々, アンケート及び聞き取り調査において協力いただいた愛知学院大学, 西オーストラリア大学 (CELT), 在パース日本国総領事館, JTB 中部, JTB オーストラリア, HIS オーストラリア, 日豪センター, パース日本人学校, の皆様方に謹んで感謝申し上げます。

巻末資料 (表10) 西オーストラリア州の犯罪発生状況 (Jul.2012~Jun.2013)

	西オーストラリア州 (WA 全体)									2012~ 2012年 同時期 発生件数
	Total	メトロポリタン (都市)							地方 (WA) ⑧	
		Central ①	East ②	Peel ③	North West ④	South East ⑤	South ⑥	West ⑦		
殺人	95	5	9	8	11	13	7	6	36	91
性的暴行	3,068	190	293	444	315	569	196	212	849	2,635
暴行傷害	25,588	1,922	2,100	2,693	2,464	4,157	1,786	2,279	8,187	22,818
強盗	1,671	151	170	189	193	422	180	211	155	1,777
住居侵入	27,400	1,270	2,585	3,168	2,583	6,210	3,202	3,693	4,689	27,375
自動車盗	9,205	512	866	1,098	918	1,921	924	1,245	1,721	8,186
窃盗	79,255	7,990	6,614	8,677	8,303	16,045	7,656	9,501	14,469	77,355

注意：上記統計は在パース日本国総領事館より入手したものを基に著者作成。殺人は未遂を含む件数。なお上記メトロポリタン (都市) 内の地区は番号により表記した。

- ① Central 地区：Cottesloe, Wembley, Perth.
- ② East 地区：Kiara, Ellenbrook, Midland, Mundaring, Forrestfield.
- ③ Peel 地区：Kwinana, Rockingham, Mundijong, Mandurah, Pinjarra, Dwelligup.
- ④ North West 地区：Yanchep, Clarkson, Wanneroo, Joondalup, Hillarys, Warwick.
- ⑤ South East 地区：Belmont, Kensington, Cannington, Canningvale, Gosnells, Armadale.
- ⑥ South 地区：Fremantle, Palmyra, Murdoch, Cockburn, Rottneest.
- ⑦ West 地区：Scarborough, Stirling, Mirrabooka, Morey, Bayswater.
- ⑧ 地方 WA：メトロポリタン (都市) を除く全エリア (地方)

巻末資料 (表11) 日本, 名古屋市, 西オーストラリア州犯罪統計表

国・地域 年 異種	日本		西オーストラリア州				
	2011	犯罪率	2010	2011			
				犯罪率	日本比	名古屋市比	
殺人 (未遂含む)	1,051	0.8	103	91	3.8	4.7	1.9
暴行傷害	55,069	43.1	22,854	22,818	955.9	22.1	7.7
強盗	3,673	2.9	1,793	1,777	74.4	25.6	6.2
性的犯罪	11,877	9.3	2,900	2,635	110.3	11.8	4.4
住居侵入盗	20,262	15.9	26,622	27,375	1,146.8	72.1	2.3
窃盗	1,133,127	886.6	70,635	77,355	3,240.6	3.6	1.1
犯罪発生 総件数	2,139,725	1,674.3	223,502	235,115	9,849.8	5.8	2.1

注意：上記統計は在パース日本国総領事館より入手したものを基に著者作成。犯罪率とは、人口10万人当たりの犯罪発生件数を指す (西オーストラリア州人口：2,387.2千人, 2011年12月, また名古屋市の人口は2,275.4千人, 2014年7月現在で算出 (名古屋市との比較)。データは愛知県警察本部より入手し著者作成 (2014年8月12日)。